

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成25年(2013)3月10日
No. 63
発行 高津啓洋

森林減少世界一の国 パラグアイ

パラグアイは世界で一番単位面積当たりの、森林伐採が進み、森林減少率が最も早い国として知られています。これに対して、数年前パラグアイのラジオ局が大々的に1000万本植樹キャンペーンを行いました。今そのキャンペーンの声は聞かれません。

パラグアイの困難さは、国土のほとんど(97%)が個人所有となっており、今も牧場等に使用するために、伐採と焼却が繰り返されています。もし植樹をするとしても、その場所の確保が困難となっています。

環境悪化が 農業を直撃

森林は地球の表面の約30パーセントをカバーしています。

森林は、多くの種を守っています。そこからは、有益な医薬品が発見されたり、将来的にも新発見の可能性が大と言われています。さらに森林は大気の浄化をし、大気中の過剰な炭素を吸収し、文字通り、天候を制御し、水を保水し、経済的に不可欠な天然資源も提供

しています。一方、地球環境の劣化は目に見えて現れており、極度の干ばつと集中的豪雨等で、土地の力が失われてしまい、農作物の



元はすべて森林地帯でした

収穫には多量の化学肥料と、多量の農薬が必要となっています。

日系の農業事業者の中には、日本人向け農産物は非遺伝子組み換え、不耕起栽培による土壌流失を防ぎ、減農薬または、有機栽培に転換して高品質作物生産を目指している人が多く出てきています。

「我々が森林を伐採し、切り拓いた、開拓地が、結果的に温暖化問題を引き起こす遠因となった」と、話す日系移民の人もいます。パラグアイは日系移民の苦勞の末に、今では世界で三番目の大豆輸出国となりました。

私達は、南部の諸都市と連携して、きっかけとなるボランティア

隊を日本から送って植樹活動を展開してきました。その結果、市長をはじめ、全市の中学校、高校の先生、学生も一つとなって植樹が展開されてきています。

植樹された木々を大切に守っているのが、先生や生徒たちです。

森林の価値を 身に染みて

しかし、大切な地球環境も新しい農業開発のための皆伐など、人間活動による危機が迫っています。さらに、近年ではもう一つの要因として、ますます高まっているのが気候変動によるストレスです。特に、温暖化問題です。人間活動が生み出す温室効果ガスが引き金になり、これまで以上に頻繁に、激しい干ばつ



ニームの森が次々と生まれて

が発生したり、豪雨を招いたり、様々な自然気候変動が起こっています。

森の再生が始まる

こうした中、私たちの取り組みによって、パンタナールをはじめ、南部諸都市も植樹がされるようになってきました。私たちの育苗所からは、現在無料で苗木が提供されています。

インディヘナの小さな町にも、ニームの苗木やモリンガの苗木が大きく育っています。徐々にではありますが、森が取り戻されてきました。森が戻ると、下草が生え、微生物や、昆虫が増え、それを求めて鳥や小動物が増え自然が甦ってきました。



ミンガグアス市の植樹ボランティア

【お知らせ】今年も8月にボランティアをパラグアイ国に派遣します。皆様からの支援をお願いいたします。